

## 「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」

事故から13回忌、安全最優先の企業風土の構築を誓う

2005年4月25日の福知山線列車事故から12年目を迎える4月25日、JR西労組の主催で「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」が開催され、ジェイアール・イーストユニオンからは秋山中央副委員長と池田中央執行委員が参加した。

冒頭、主催者を代表して挨拶に立ったJR西労組の荻山委員長は「事故から12年を迎え13回忌にあたります。事故で尊い命を失われた107名の御霊にご冥福をお祈りするとともに、お身体や心に大きな傷を負われ、今なお苦しんでおられる多くの皆様の一日も早いご回復をお祈り申し上げます」と心痛な面持ちで語った。また「安全は組織の枠を越えて取り組まなければならない、組合側と企業の違いはあるが、目指す方向が同じでなければ安全を最優先する企業風土は構築できない」と参加組合員に訴えた。JR連合を代表して松岡会長は「福知山線列車事故の被害者の方々の回復をお祈りしますとともに、安全の確立は最重要課題であり、重大事故防止・労災死亡事故ゼロをめざしていく」と運動の実践を求めた。

その後『安全を支える考動と鉄道強靱化』というテーマで、JR西日本常務技術理事・構造技術室長の松田氏より国土強靱化や耐震補強などの説明を受け、考動の私案として「安全を支えるもの、それは深く考えて具体的に行動することであり、マイナス面をなくす取り組みだけではなくプラスの面も進めていき、やる気を上げていかなければいけない」ということが語られ、考えさせられる基調講演であった。さらにJR西労組の羽野業務部長より『安全考動計画2017検証アンケート』について、「全体的に、安全に対する感度が良かったとはいえ、まだまだであり道半ばである」との報告を受けた。

最後に閉会の挨拶でJR西労組の里内副委員長は「福知山線列車事故から13回忌にあたり、信楽高原列車事故から25年を迎える。安全確立の運動はJR西労組運動である」と語り、参加者全員で安全の確立を構築していくことを誓い終了した。

集会を終えて私たちは事故現場へと赴き、花を手向けて107名の御霊のご冥福をお祈りするとともに、二度とこのような悲惨な事故を起こさないことを誓った。



**お客様はもとより、すべてのJR関係労働者の  
「死亡事故・重大労災ゼロ」を完遂しよう!**